

日本 萬歳 百撰 百笑

○小癩ツ危兵

骨皮道人

自己の事を日本で小癩ツ危兵の虚弱兵
 だのと云々居るまうが何れも勇を勝
 手小勇が宜い、下海軍が手も足も出さ
 くあつたが、自己達の陸兵までがさう
 ドシくと横腹と打技を堪るものや、
 尤も日本に相撲取で、四十八年あると云
 ふ話、軍人あつた何様を興のものが
 あり知らぬ併斯く、新設の
 の死度を出りや、何處がどう来て
 の先大丈夫さう、右も左も、
 防い、来れ、槍を受、前が来りや鉄砲
 あ、後、来りや、ハテ、斯うあつて見
 と脊中、二三本が欲あつ、イヤ、の
 時、足の部と遣や、ホシと柱馬の高
 飛を極、オット待、ま、さうすりや、け
 馬が驚、跳、返、其途、端、コ、ロ、
 ド、タ、リ、と、来、て、困、其時、何、ら
 宜からう、ア、落馬、苦の種だ



明治廿五年四月二日印刷全年六月五号發行東京日本橋區川町三番地印刷發行所松水平吉

貞生